

# SAN LUN への Windows Server 2003 メディア用の UCS インストール手順

## 目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[インストール前の手順](#)

[インストール手順](#)

[インストール後の手順](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

[関連情報](#)

## [概要](#)

このドキュメントでは、Storage Access Network ( SAN ) Logical Unit Number ( LUN ) への Windows Server 2003 メディア用の Cisco UCS のインストール手順を紹介しています。

## [前提条件](#)

### [要件](#)

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

### [使用するコンポーネント](#)

このドキュメントの情報は、Cisco UCS に基づくものです。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな ( デフォルト ) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

### [表記法](#)

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

## インストール前の手順

インストールに先立ち、次の手順を実行します。

1. LUN ディスクへのマルチパスがイネーブルになっている場合、1つのパスを除き、すべてのパスを一時的にディセーブルにします。
2. 仮想メディア マシンでウイルス スキャン ソフトウェアがイネーブルになっている場合、一時的にディセーブルにします。
3. UCS コンソールが稼働するクライアント マシンには、DVD-ROM とフロッピー ドライブ (A ドライブ) が搭載されている必要があります。フロッピー ドライブが搭載されていない場合は、フロッピー ドライブ エミュレーション プログラムを実行する必要がありますが、これは Cisco から提供されるものではありません。
4. Windows Server 2003 のリカバリ メディアにあるインストール用のストレージ アダプタ ドライバが必要です (D:\OEM\DRIVERS\MassStorage\QLogic など)。
5. Mezzanine カードの種類および Windows インストールのエディションに基づき、該当するドライバをフロッピー ディスク (A:) にコピーします。たとえば、Windows Server 2003 Enterprise x64 を QLogic Mezzanine カードが搭載されたブレードにインストールする場合は、次のファイルを A: にコピーする必要があります。

D:\OEM\Drivers\MassStorage\QLogic\64Bit\B\_Q23WX64STORV91736\\*.\*

## インストール手順

次の手順を実行します。

1. UCS から、KVM コンソールを起動します。
2. KVM で、[Tool] > [Launch Virtual Media] の順に選択します。これで KVM Virtual Media コンソールが起動します。
3. Windows Server 2003 リカバリ DVD を DVD-ROM に挿入します。
4. KVM Virtual Media コンソールから、DVD をマウントするために [Mapped] チェックボックスをオンにします。これによって、DVD コンテンツがブレードで使用可能になります。
5. A: フロッピー ドライブに該当するメザニン カード ドライバがあることを確認します。詳細については、「[インストール前の手順](#)」を参照してください。
6. KVM Virtual Media コンソールで、A: フロッピー上の [Mapped] チェックボックスを オンにします。
7. [Do you want this device emulated as a floppy] と表示されたら、[NO] をオンにします。
8. UCS Manager GUI で、**Reset** をクリックし、ブレードを正常に再起動するために **OK** をクリックします。
9. ブレードがリブートしたら、F6 を押してブート メニューにアクセスします。ブート オプションのリストが表示されます。
10. [Cisco Virtual CD/DVD 1.16] を選択します。
11. ブートするためには **Enter** キーを押します。
12. CD からブートするには任意のキーを押します。
13. Windows セットアップ画面の下部にプロンプトが表示されたら、サードパーティ製ドライバをロードするために F6 を押します。**警告**：これは重要なステップです。プロンプトが変わる前に、F6 を押す必要があります。
14. [Setup could not determine the type of one or more mass storage device] プロンプトが表示されます。追加のデバイス用に **S** を選択します。

15. ドライバを選択するには、**Enter** キーを押します。
16. インストール中に、フロッピーのドライバまたは Windows で提供されるドライバのどちらを使用するのかについて確認を求められたら、フロッピー上のドライバを使用するために **S** を選択します。
17. 設定では、大容量ストレージ デバイスのサポートがロードされることが通知されます。**Enter** キーを押します。
18. カスタム設定の場合は、**C** を選択します。
19. EULA に同意する場合は、**F8** を押します。
20. 指示に従い、オペレーティング システムのインストール先の SAN ディスクを選択します。適切なドライブのフォーマット手順を実行します。
21. ファイルのコピーが開始されると、インストールによって大容量ストレージ ドライバが再度求められます。A: の [Mapped] チェックボックスをオフにしてアンマウントします。次に、「A:」をオンにして再マウントします。[Do you want this device emulated as a floppy] と表示されたら、今回は [YES] をオンにします。これは既知の不具合です。
22. 続行するには **Enter** キーを押します。コピーが続行されます。コピーが完了したら、インストールではブレードがリブートされます。
23. SAN ディスクからブートします。
24. An EMS connection was detected メッセージが表示されたら、**OK** をクリックします。
25. **ロゴなしの**ドライバのインストールの確認を求められたら、必ず毎回 [YES] と答えることが重要です。
26. コンピュータ名、ユーザ名、プロダクト キー、日付、タイムゾーンなどを手動で入力する必要があります。

## インストール後の手順

次の手順を実行します。

1. Windows Server 2003 がブートすると、CD2 が求められます。リカバリ ディスク上の \OEM\R2 ディレクトリ ( D:\OEM\R2 など ) を選択し、**OK** をクリックします。R2 がインストールされます。
2. Device Manager を開きます。多くのデバイスが黄色で表示されます。次の手順によって、ドライバがインストールされます。
3. File Explorer から、D:\OEM\Drivers\CHIPSET\INTEL\_CHIPSET\_V9.1.0.1012\Setup.exe を実行します。これで Intel Chipset のドライバがインストールされます。
4. D:\OEM\Drivers\Video\_ServerEngines\\*setup.exe から、ディスプレイ ドライバをインストールします。
5. Device Manager からネットワーク ドライバをアップデートします。Ethernet controller を右クリックします。[update driver] を選択します。  
D:\OEM\Drivers\NETWORK\_OPLIN\PROXGB\<32 または 64 ビット> から inf ファイルへのパスを指定します。
6. 追加のイーサネット コントローラに同じ手順を実行します。
7. 不明な SCSI コントローラについては、inf ( D:\OEM\Drivers\MassStorage\LSI\<32 または 64 ビット> ) にあるドライバを更新し、[LSI SAS] を選択します。
8. マルチパスを再度イネーブルにします。

## 確認

現在、この設定に使用できる確認手順はありません。

## [トラブルシューティング](#)

現在のところ、この設定にトラブルシューティングを行う手順はありません。

## [関連情報](#)

- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)